

教授 宮田 浩二

専門領域 スポーツ心理学、ウエルネス学

研究内容

スポーツが精神的健康、いわゆるメンタルヘルスに及ぼす有効性は、数多くの研究において知られている。そこで、スポーツがいかに人間の行動に関わっているのか、心と身体の関連に焦点をあてて、スポーツ心理学及びウエルネスライフとの観点から研究をしている。

准教授 森 恭子

専門領域 国際社会福祉、地域福祉

研究内容

国際社会福祉領域では、主に移民・難民への福祉政策やソーシャルワーク実施のあり方を研究している。関連するNPO団体と連携を図り、実証的な研究を行っている。地域福祉領域では、市町村の地域福祉計画の策定・推進における地域移民への福祉教育や参加のあり方について研究している。実際の計画策定に携わりながら、研究と実践活動の両方に取り組んでいる。

■人間科学専攻修士課程授業科目の概要

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
人間科学特論	神田 信彦	この授業では、「科学」とは何であるか、「人間」とは何であるかを再考し、それらを基に「人間科学」とはどのようなものであり、何を目指しているのかを考える。次いでなぜ「人間科学」であるのかを検討していく。さらに人間科学を構成する諸領域の中から心理学、社会学などを取り上げ、それらが人間やその営みをどのような観点や方法によって研究し、理解を進めようとしているか示していく。最後に特定のテーマを取り上げ人間科学の諸領域それぞれからどのように捉えることができるのか、それらの総合化は可能であるのかを検討する。
人間科学研究法特論	金藤 ふゆ子 関井 友子 星野 晴彦 益田 勉	人間科学の諸領域において利用される研究方法について学ぶ。4名の担当者がそれぞれの授業内容に沿って進める。
人間科学課題特論Ⅰ (心理学)	大木 桃代	人々の生涯の幸福を追求する上で、心身両面の健康はもつとも重要なキーワードの一つである。この授業では「健康の推進と維持、および疾病の予防」を目的とする健康心理学を通し、我々の人生における健康の意義と実践について検討する。また、健康という概念を通して、多方面からの人間科学的アプローチを身につけることも期待する。数名のグループでデータを収集・分析し、論文を作成するという過程を通して、健康心理学に対する実践的な視野を広げることに加え、心理学領域の論文の執筆方法についても学習する。
人間科学課題特論Ⅱ (教育系)	青山 鉄兵 金藤 ふゆ子 宮田 浩二	広く人間形成は、みずから発達する側とそれを促す人的・物的な環境の相互作用、いわゆる人が生活の中で相互に支え合いながら、「新しい自分」をつくりあげていくことである。本講では、人として育ち、育てられていくプロセスを理論的、実証的に探っていく。研究を進めていく上で必要となる内容は、教育や人間形成に関わる分野について、講義および演習等を行う。内容の主なものは以下の通りである。 1. 生涯学習・社会教育に関する理論・制度・実践をめぐる諸問題 2. 子ども・若者の現状と育成をめぐる諸問題 3. 生涯スポーツおよびウエルネスライフに関する諸問題
人間科学課題特論Ⅲ (社会学)	関井 友子	ナラティブ・プラクティスの実例から社会構築主義を理解する。社会学はどの様に人間と人間が営む対象へアプローチするかを学ぶ。具体的にはアルコール依存症や共依存などアディクション(嗜癖)とその対処としての自助グループ、「べてるの家」にみる統合失調症への対処・当事者研究など、臨床実践に学び理論を学習する。
人間科学課題特論Ⅳ (福祉系)	星野 晴彦	社会福祉の専門職による支援であるソーシャルワークについて考える。方法としては、ソーシャルケースワークの母と呼ばれているリッチモンドの著作(今から百年以上前に書かれたもの)を読む中で、ソーシャルワークの支援の特性・本質について考える。
健康教育特論	石原 俊一	健康教育は、健康の維持・増進と疾病予防・治療に関する健康心理学の一つの重要な応用分野で、健康についての知識をいかに具体的な実践場面に応用するかを重視している。健康教育というと、学校健康教育を連想するが、今日では、健康教育は広い範囲にわたって行われている。本講義では様々な場面において健康維持する上で、いかに学習者が主体的に関与しながら、健康に向けての知識を身につけ、信念や態度など、健康に対する積極的な意欲を高め、健康に関する技能に習熟するかについて理解を深める。

知識の探求と新たな視点へ

私は文教大学人間科学部心理学科で、基礎から応用まで幅広く心理学を学びました。しかし、より包括的に人間を理解する上で、心理学だけでなく人間科学の専門知識を学ぶ必要性を感じたため、大学院は人間科学専攻に進学しました。現在、専門の心理学以外の社会学・教育学などの授業も受けることにより、期待通りに知識や関心が広がっています。また、授業は学生自らが発表を行い、先生を含め皆で討論を行います。討論を重ねることに自分自身の知識を整理し、理解を深め、さらに新たな疑問や視点に気付くことができ、充実した毎日を送っています。卒業後は、大学院で得た知識を生かし、社会貢献できる職に就きたいと考えています。



人間科学研究科 人間科学専攻修士課程2年
岡安 那苗 さん

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
健康教育演習	石原 俊一	健康教育は、健康の維持・増進と疾病予防・治療に関する健康心理学の1つの重要な応用分野である。健康維持する上で、いかに学習者が主体的に関与しながら、健康に向けての知識を身につけ、信念や態度など、健康に対する積極的な意欲を高め、健康に関する技能に習熟するかについて重視している。 本講義は、健康教育のテーマに沿った文献をもとに具体的な方法について実践を通して理解を深める。
ビジネス心理学特論	益田 勉	ビジネス心理学は、ビジネス領域における人と仕事と組織のかかわりについて心理学の知見を活かして実証的に考えていこうとするものである。こうした研究の具体的なテーマとして、個人と組織のアセスメント、組織行動、組織開発、人事管理、キャリア開発、キャリア・カウンセリングなどがある。この授業ではこうした中で特に組織行動に焦点を当て、文献講読を通じて「組織の中の個人」「個を活かし組織の力を高めること」などについて検討する。
ビジネス心理学演習	鎌田 晶子	消費者心理学に関連する文献の講読を中心に据えて学習し、日常生活における意思決定やリスク判断についての理解を深めることを目的としている。受講生には、初回授業で提示した範囲の中で、自身の興味・関心に基づいてテーマを選択するよう求める。心理学の経済活動への応用について、幅広く議論する。
実験心理学特論	田積 徹	この授業では、主に実験法によって研究が進められている学習・記憶・生理心理学といった専門領域の専門書を精読していく。大学院では各専門領域で研究が進められているさまざまなテーマの深化した体系に触れ、自分の修士論文の研究をその体系に位置付けていくことが求められる。このことは学習・記憶・生理心理学といった専門領域に限らず、他の専門領域においてもある程度共通していると思われる。したがって、上記の専門領域について学部で学んだ概論的な知識に基づいて専門書を精読する経験を通して、各自の修士論文の研究を位置づける作業に役立ててもらう。
ストレスマネジメント特論	城 佳子	健康心理学は、現代社会における健康をめぐる環境の変化に応える形で近年発展してきた心理学の応用分野である。中でも「ストレス」は中心的に取り扱われている研究テーマである。本演習では、心身の健康状態の維持、増進を目指した「ストレスマネジメント」の基礎的研究および、具体的な介入の実践的研究についての理解を深め、介入方法の実践、および研究を自ら体験することを目的とする。またこれらを通して、健康心理学的視点や倫理性も併せて学習する。
社会心理学特論	神田 信彦	社会心理学の領域は多岐にわたるが、この授業では社会の中の自己という視点に立ち、自己意識特性や自己意識理論などの自己注目や、自己コントロールの理論やモデルを理解するとともに検討を試みる。またこれらの概念と適応・不適応との関連についても検討する。まず、これらの概念及び不適応を扱った研究の概要を確認し、受講生とともに実際の生活場面への適応の可能性について討論を行う。
生涯学習特論	金藤 ふゆ子	この授業では、生涯教育の中でも特に成人教育に着目し、近年の成人教育論の理論的検討と、実証的研究に基づく成人学習者の理解を目的とする。具体的には、成人学習者の特性、成人学習者の学習課題、成人の特性を生かした学習支援のあり方、成人の学習成果の評価と活用などの諸問題について検討を行う。ここでは国内外の調査研究や、学術論文も教材として活用し、成人教育の諸問題を多角的に分析・検討する。受講生自らが成人学習者であることから、適宜、討議の機会を持ちながら授業を展開したい。
子ども文化特論	青山 鉄兵	現代社会における子ども・若者の生育環境に関する基本的な文献の講読を行うことを通じて、今後の子ども・若者支援をめぐる論点について検討することが本講義の目的である。具体的には、①子ども・若者の家庭環境や学校・地域における人間関係、メディア環境等の変化と、②子ども・若者支援に関わる実践（理念、制度、方法、支援者等を含む）をめぐる問題の双方に焦点を当てながら、現代社会における子ども・若者支援について、主として学校外教育の観点から考察する。

新たな分野で刺激される知的探究心

私は大学で経済を学んでいました。他分野の人間科学専攻へ進学したきっかけとしては、4年次に海外研修で訪れた、マレーシアでの出来事があります。私は不法滞在者の集落で、15歳の時点で2児の出産をした少女と出会いました。その集落では、早期の妊娠出産が当たり前であり、彼女の初産も13歳である事に大変衝撃を受けました。その原因の一つに「性教育を受けていない」という事があります。この経験を元に、若年女性の性教育の必要性を感じ、多くの知識を学びたいと考え人間科学専攻への進学を決めました。現在は、他分野の院生との交流や、先生方の多方面からのご指導により、日々発見があり刺激的です。幅広い知識を学ぶ事ができ、毎日が充実しています。



人間科学研究科 人間科学専攻修士課程2年
馬場 真裕 さん

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
NPO活動特論	二宮 雅也	NPO（特定非営利活動法人）とは、Nonprofit Organizationの略称です。1998年に特定非営利活動法が制定され、具体的な組織化が国内で進行了。その目的は、特定非営利活動法人（NPO法人）としての法人格を有することにより、ボランティア活動をはじめ市民が行う自由な社会活動の健全な発展を促進し、公益の増進を図ることです。この授業では、現代社会の構造を学びながら、NPOの位置、役割を考え、今後の市民社会のあり方について考察することを目的とします。特に、ボランティアをはじめとする市民活動との関係性や、行政とのパートナーシップ等に焦点をあて、地域活性の視点を含みながら、ケーススタディを中心に授業を行います。
スポーツ・ウェルネス特論	宮田 浩二	今日のスポーツの普及にはめざましいものがあり、スポーツを行う人々のスポーツに託する思いは、実に様々である。また、スポーツとは、世界共通の文化であり、コミュニケーション手段として行われている。 そこで、スポーツウエルネスの観点から、私たちがより幸福でより充実した人生を送るためにはどうしていけばよいのか、スポーツによって築かれるウエルネスライフのあり方等について、興味や関心を高めて実践していくことが目的である。
高齢者健康援助特論	秋山 美栄子	さまざまな老後の問題について社会・文化的背景を考えながら、高齢化時代における健康について考察する。身体的な健康の側面として、生活習慣病をはじめとする高齢者に多発する代表的な疾患について、医療と福祉の視点からインフォームド・コンセント、自己決定、介護予防などQOLとの関連を追究する。また、心理的な健康の側面として、ストレスなどを中心に高齢者を取り巻く家族形態や生活・社会環境の中から、生きがい、喪失体験、死などをテーマにQOLを向上させ得る要因について検討し、考察を深める。
国際福祉特論	森 恭子	グローバル化の進展とともに「福祉国家」の前提となっていた「国家」や「国民」の概念がゆらぎ、新たな「福祉国家」の構築が求められている。本講では、現代の移民・難民問題を取り上げ、制度、実践の両面から、支援体制のあり方について、ソーシャルキャピタルや社会統合を視野にいれながら考察する。
児童福祉特論	櫻井 慶一	わが国の子育て支援の現状を検討し、国により次年度からの実施を目標に現在進められている「子ども・子育て支援」新システムの概要と課題を明らかにしてみたい。本年度の演習のなかでは、その中でもとりわけ大きな争点となっている「幼保連携型認定こども園」について、関係者からのヒアリング等も含めて理解を深めたい。
現代文化特論	関井 友子	社会関係資本を中心に地域社会（コミュニティ）活動の可能性について学ぶ。パットナムが『孤独なボーリング』で描いたアメリカ地域社会の崩壊と社会関係資本の重要性を理解し、新しい関係構築の事例などについて理解を深める。
現代文化演習	大塚 明子	近代～現代の日本社会における価値観の変容、特に欧米の個人主義の日本的受容という問題を大きなテーマとし、多方面からアプローチしていきたい。まず従来数多く出版されてきた日本文化論・日本人論を批判的に検討する。他にも受講者の関心に応じて、家族（特に親子関係観）、学校、近代文学、大衆文化や若者文化など、様々な資料を取り上げることを考えている。
文化人類学演習	中村 博一	現代は、多様な文化の主張が人間理解の障害や人間の選別化につながりうる事態を生じさせている。また、多様な文化をとりこんでそうした主張がなされる事態も珍しくない。本特論では文化領域と人間科学を主なテーマとし、われわれの自意識の基盤とされる文化の思想を文化人類学、民俗学を中心に読み解いてみる。